

発がん性評価の精度向上

発がん性評価の課題に対応するためには、「発がん性評価の課題」（資料 1）に掲げた化学物質のすべてに対して、「長期発がん性試験」を実施することが望まれるが、試験期間が長期間に及ぶこと、経費が膨大な規模となることから、試験の実施数が限定され、現実的な対応とはいえない。

このため、発がん性評価の精度向上のため、経口投与による「中期発がん性試験（ラット肝中期発がん性試験）」に加えて、以下の「遺伝子改変動物による発がん性試験」を導入してはどうか。

○遺伝子改変動物による発がん性試験

- 1 多臓器の標的性を総合的に評価できる試験手法
 - ・ 遺伝子改変動物による発がん性試験は、化学物質による多臓器の標的性を総合的に評価できる試験手法として開発されたものであること
- 2 ガス、蒸気又は粉状の化学物質を対象とできる試験手法
 - ・ 「長期発がん性試験」を実施する試験施設であれば、長期経口ばく露による調査が不能なガス、蒸気又は粉状の化学物質を対象とできる試験手法
- 3 試験期間の短縮及び経費負担の軽減
 - ・ 「長期発がん性試験」に比べて、試験期間が大幅に短縮されること、経費の負担が軽減されること、試験の実施数が増加することから、発がん性の評価の迅速化及び精度向上に適した手法といえること